

希 望

1月・2月号

No. 450



2022年1月24日

知的障害者育成会 高槻手をつなぐ親の会

発行責任者 硯 啓

団体事務所 TEL 072(672)0672

月例会

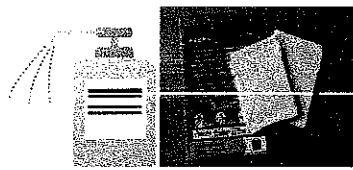
12月からは、親の会の今後に向けての話し合いをしています（12月15日、1月19日）

2月は16日に、コロナの感染の拡大が心配されるので毎年最終月に行っている茶話会できませんが、この1年を振り返っての話や、会の運営についてのご意見、忌憚のない発言を頂けたらと思います。マスク着用、感染予防に留意の上ご出席の程よろしくお願い致します。

開催日時 2月16日（水）10時から12時

場 所 市民会館205号室

*3月は月例会はありません



うの花療育園保護者会との交流会

12月2日木曜日今城塚公民館にて、うの花療育園保護者さん方との交流会がありました。うの花保護者32名、うの花療育園の副園長先生、手をつなぐ親の会より和田光子さん、和田弘美さん、加地、加地の知り合いで地域の中学校の支援学級に通っていて、中学卒業後の進路を考えていらっしゃるお母さまに参加してもらいました。その方は発達障害の療育の情報を持っている方なので、とても参考になりました。

発達に問題を持つ子どもを不安の中で育てるお母さん方に少しの安心感と先へ進む希望を持って頂けたかなと思います。以下に参加者の感想を掲載します。

(加地 さちよ)

○初めてこのような場に参加したのですが終わった後、色々和前向きに動いていこうという気持ちになりました。親御さんの経験談はこの先も自分も試してみようと思うアドバイスばかりで、もっとお話を聞いてみたかったです。

○今までは、大きくなってからの我が子を想像出来ず将来について不安ばかりでした。皆さんのお子さんに対する姿勢が希望、励みになりました。私も子供に好きな事、安心できる場所を見つけてあげたいです。

○我が家には男の子二人(11歳と4歳)がいますが、2人とも発達障害があり、日々悩み奮闘しており、時にはもう無理だと思う日も少なくありませんでした。交流会でみなさんのお話を聞いて、お子さんとの向き合い方、細やかに対応されている日々の様子は大変参考になりました。

これからも療育、生活支援して下さる方々のお力をお借りしながら、スモールステップですが親として出来る限りのサポートをしていきたいと思えます。

和太鼓体験

12月11日土曜日、現代劇場文化ホール地下ロビーにて、和太鼓体験をさせて頂きました。今回で5年目です。いつも、ミュージックケアに通って来てる幼児さん、小学校児童に声掛けしたのですが、ほとんどの小学生さんが成長してミュージックケアを卒業してしまいました。また、事業所の開所日で、会員さんの参加も少なくて困りました。そこで、ほっこりタイムに参加されたとき、太鼓をたたくのが好きと聞いていた支援学校の中等部のお子さん2家族、うの花療育園の保護者役員さんに声掛けして、家族で3組参加して頂きました。会員さんは3組。全員で26人でした。

和太鼓体験を企画してくださった文化振興事業団、高槻太鼓の皆さんにお礼申し上げます。以下に参加者の感想を掲載します (加地 さちよ)

○我が子は聴覚過敏があり、大きな音だと逃げてしまう事があるので心配してましたが、和太鼓の音は平気だったようです。楽しんで、和太鼓をたたいていました。障がい児が参加できるイベントは少ないので、年一回とは言わず、月一回など定期的で開催してほしいと思うくらい良い体験が出来ました。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

○初参加でした。会場に入ると息子はバチを貰い太鼓を叩きますが、各方面から聞こえる音にビックリしたかな。次第に床でゴロゴロしました。けれど、三三七拍子の時は耳を傾けて、しっかりと聞いていました。いつか、集団の中に入り、太鼓を叩ける日が来ることを願っています。今回楽しみながら、とても貴重な体験をさせていただきました。

○息子は毎年この日を楽しみにしています。年1回ではなく月1回ペースでやって貰えると嬉しいです。

○太鼓のばちを貰ったら早速トントンと叩き始めたので、やはり太鼓好きなんだと思いました。相変わらず、全く力の入らない叩き方ですが、本人は大真面目。リズムが合ってなくても、合わせたつもりで大満足な顔でした。

○聴覚過敏でイヤーマフをしています。太鼓を叩きに行きますか？と聞くと「行く」と返事をしました。笛が入ると、お祭りみたいで太鼓の音も体に響いて楽しいですね。今回は、「高槻ウェーブ」の三三七拍子が叩けるようになりました。積み重ねの成長です。

息子の入院

10年位になりますでしょうか、長らくお尻の脱腸で悩んでいました。緑ヶ丘病院、高槻病院、北摂病院、西崎クリニックと高槻中の病院を駆け回りましたが、良い返事をいただく事は有りませんでした。親の会会長の硯さんが同じような病気で2018年に親の会会報「希望」に書かれていたのを思い出し、直ぐに連絡、色々と事情をお聞きしました。「藍野病院が精神科があって、完全看護でいいよ」と教えていただき、直ぐに藍野病院に走りました。

2021年10月に2回診察を受け、お尻から腸がこぶし大くらい脱腸していて直腸脱という診断を受け2021年10月27日から11月16日まで21日間6人部屋に入院しました。入院時は「不穏状態となれば筋肉注射、症状に応じて身体拘束を行う」という同意書にサインをして送り出しました。別れる時には「お尻を先生に治してもらおうね」と何度も言い聞かせ、自身も何をされるのかわからず不安そうでした。病院のパジャマとパンツに着替え、バイバイすると私も泣けて泣けて仕方ありませんでした。

手術は「粘膜縫縮術」という方法で、大腸を手芸の絞り染めのように絞って縮める方法です。切るわけではないので5年、10年たったら伸びてくる可能性があるとのことでした。11月2日手術の日、腕には点滴をしていました。元気そうでした。顔を見ると、洗面セットを差し出して「帰りたい」の仕草をしていました。「もう少しお尻を治してもらおうね」というと納得した様子でした。

思いの外いい子でいられたのにびっくりしました。21日間筋肉注射をされることもなく過ごすことが出来ました。中間報告を受けた時も、元気な様子で「点滴の袋棒を持ったままトイレに走るので看護師が急いで追いかけている」との報告を受け笑ってしまいました。看護師さんにはご迷惑をおかけしました。

金額の事ですが精神科のある病院ですので「標準負担額認定書」というのを市役所に申請するように勧められ「ア・イ・ウ・エ・オ」の5段階の内1番安いランク「オ」で療養セット、おむつ類、予防接種含めて病院の支払いはで6万円で終わる事が出来ました。

お金の事で恐縮ですが、AIGの保険に入っていたので

付き添い介護保険金	完全看護の為なし	
差額別途費用	完全看護の為なし	
入院諸費用	1000円×21日	21000円
入院一時金	6000円	

合計27000円の保険金がありました。

治療にあたって頂いた先生、看護師さんその他息子に関わってくださった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

北東ブロック根来恵実子、息子秀行 46歳

絵画教室

12月4日(土)と5日(日)に開催された第40回高槻福祉展に絵画作品を出展しました。5日(日)は絵画教室の予定でしたが事業所の開所日と重なりお休みになりました。

毎年、「かんでんコラボ・アート」に絵画教室のメンバー全員の絵を応募しています。絵を2Lサイズにして郵送、1次審査を通過しましたとお知らせが届くと額に作品を入れてすぐに展示できる形態にして送ります。2次審査で選外となった場合、返却されます。2021年度1次審査通過のお知らせがメンバー1名届きました。額に入れて作品を送りました。

1月は15日(日) 2月は6日(日) 3月は6日(日) メンバーの作品はゆうあいセンター1Fに展示しています。 担当 城

ボウリング同好会

11月28日(日)、12月26日(日) 8名で3レーンを借りて2ゲームしました。

4名以上で11月は呪術廻戦マスコット人形、12月は呪術廻戦キーホルダーを貰いました。会員は親の会よりゲーム代補助があるので1人2ゲーム500円です。

貸し靴代390円(来店の際にたまるスタンプ2個でマイシューズ1510円税込みの購入が出来ます)毎月参加であればマイシューズが御得です。

1月は23日(日)、2月は27日(日)、3月は27日(日)です。

*メンバー表を作成してFAXするため3日前の木曜日までにご連絡下さい。

毎月第4日曜日10時スタート

場所はラウンドワン高槻店(170号線「辻子」交差点)

参加申し込み先 城

福祉展

12月4.5の二日間にわたり、第40回高槻福祉展が開催されました。

昨年はコロナにより中止となり、今年は規模を縮小しての開催でしたが、久しぶりのイベントで会場はにぎわっていました。

例年のようなウォークラリー、パフォーマンス、講演会やフリマは出来ませんが、高槻市内の事業所の紹介や各障害種別ごとの特性を解説する展示などに力を入れました。また、高槻支援学校の協力により、生徒さんたちのたくさんの作品や、学校生活の様子を紹介できました。手をつなく親の会絵画教室の作品や、高槻市内で活躍するアーティストの作品など、どれも力作ぞろいで会場が華やぎました。また、今年はスタンプラリーの代わりに「みんなの願い、とどけ！」と題し、願い事をはにたんの乗る気球の絵に貼ってもらい、来場者も参加できるコーナーを設けました。(ゆう・あいセンターに展示しています)

準備を進めながらも、開催できるのかどうかと不安がありましたが、たくさんの方に喜んでいただけて良かったです。

40回目という節目の回に、原点に戻って障害特性や実際の障害者の姿を知ってもらう展示にできたことは、福祉展の今後にとって意義深いことだと思います。

まだまだ先の見えない中ですが、今後も福祉展をより充実させ続けていけるよう、ぜひ皆様の御意見をお寄せください。(堀切 きみよ)



茨木で「馬あそび」！～「ぱかぽこひろば」さんに行ってきました

前々から馬が好きで、ホースセラピーにも興味がありました。何年か前には、枚方にもホースセラピーの牧場があり、親の会会員の加地さんのお子さんが通っていて楽しそうだったのが印象に残っていました。そこは残念ながら神戸に移転してしまい、なかなか機会がなかったのですが、茨木でもホースセラピーを行っているところがあると知り、どんなとこかなーと訪ねてみました。

茨木とはいえ、車に乗れない者にはちょっと厳しい場所ですが、大人の遠足気分です。まだ実際に馬には乗ってはいませんが（笑）、何度か見学させていただきました。主宰の千原さんご夫妻のお話をお聞きしたり、参加なさっている方と交流するうちに、高槻でもホースセラピーの場所が出来たらいいなと思うようになりました。

「ホースセラピーはとても奥深く、自分たちのやっていることはあくまでもホースセラピー『の、ようなもの』。だから『馬あそび』。」まずは実際に馬と触れ合っ、と千原さん。

人工的な馬場ではなく、山の中で馬たちものびのびしています。小さなお子さんでも、親御さんのひく馬に堂々とまたがって山道を登っていました。よく競馬場や一般の乗馬クラブで見かける、見上げるようなサラブレッドではなく、小さめの馬たちなので、親しみやすく感じます。道産子などの掛け合わさった馬たちだそうで、フワフワの毛並みに触れるだけでもワクワクします。

山の斜面に掛けられたハンモックで寝そべったり、虫を追いかけたり、乗馬以外にも思い思いに楽しめ、大人も子どもも自然と笑顔になります。

会員としてレギュラー参加しているご家族は、馬の世話も手慣れた様子。「ボロ」と呼ばれる糞を掃除したり黙々と作業する中学生くらいのお子さんの姿は頼もしかったです。小さな子どもさんたちも立派なスタッフです。

不登校のお子さんと一緒に通っているという親御さんにもお目にかかりました。山が居場所になり、馬を通じて学校以外のいろいろな人と出会いがあるというのは、とても大事なことでないでしょうか。

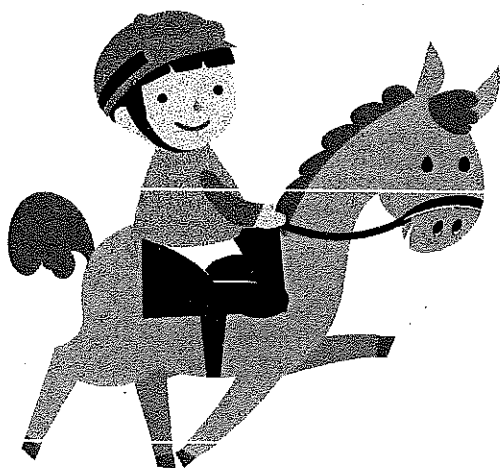
障害や様々の課題を抱えていても、馬たちは偏見をもたない。自然は誰をも優しく受け止めてくれます。人間社会の息苦しさを忘れられるひとときを過ごせました。

乗馬の技術的なことを教えてくれる乗馬クラブはわりとありますが、きちんと馬と向き合え、自然と人間の関りを考えさせてくださる「ぱかぽこひろば」さんと出会って、本当にラッキーだと思えました。

会員以外でも、ビジター参加や、見学もできます。馬にまつわるお話を聞ける学習会もあります

茨木や近辺でのイベントに出張することもあるそうですので、ぜひ「ぱかぽこひろば」で検索して、馬あそび体験をしてみませんか。

高槻でも、馬や馬車を通じて生き物や自然の共生を考えるイベントができればいいなと思っています。どなたか一緒にやりませんか (堀切きみよ)



ぱかぽこひろば
住所 茨木市上乙羽
TEL 080-5850-8872
メール pakapokohiroba@gmail.com
ホームページ <http://pakapoko.com>

世界自閉症啓発デー

昨年はコロナで中止となりましたが、今年は4月2日に昨年と同じく映画「ほくと魔法の言葉たち」上映とミニトークを予定しています。コロナ対策のため事前申し込みで先着150名となります。申し込み方法などにご注意ください。

詳しくは正式なチラシが出来次第お知らせいたします。

なお、コロナ蔓延状況によっては中止となる場合があることを予めご了承ください。(堀切 きみよ)

日時 2022年4月2日(土曜日)午後1時30分から3時45分

場所 高槻市立生涯学習センター多目的ホール

※市役所その他のライトアップは3月28日から4月10まで

第124回社会保障審議会障害者部会

(一社) 全国手をつなぐ育成会連合会 発言要旨

令和3年12月13日(月) 15時から17時

資料 障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて中間整理

- 中間整理の取りまとめに向けて、種々の調整をいただいたことに感謝する。当会として、内容に賛成する。その上で、今回の中間整理で「引き続き検討する論点」とされた部分について、何点か意見させていただく。
- まず、行動障害のある人への支援については、最終的な取りまとめに向けて項目を立てて議論する機会を設けていただきたい。
特に強度行動障害を有する人への支援については、支援の困難性を整理いただいたところではあるが、具体的にどのような支援を展開すべきなのか、法制度やサービスの運用も含めての検討が不可欠と考える。P17で示された調査研究の結果を活かす事や、P35の入院中における医療機関での重度訪問介護の適切な対象拡大については、実態把握に基づいた議論が重要なため次回の検討時にはきちんと現状を検証して議論をしていただきたい。
- 一例として、重度障害者等包括支援は選択肢に入りうるところだが、あまりに利用者が少ないため国保連に請求を上げられない実態がある。他方で重度包括から重度訪問介護や行動援護を組み合わせることで地域生活を支える仕組みづくりに挑んでいる地域もあり、こうした実践を踏まえた議論を期待する。
特に行動障害が著しい場合には「とりあえず入所施設や精神病院」となりがちだが、国連の権利条約に照らし、どんなに重い障害でも本人の望まない暮らしが提供されてしまわないよう、地域での暮らしを支える仕組みの充実に向けた検討をお願いする。その点については、障害者権利条約の国連での日本の審査状況を障害者部会でも共有すべき。
- また、行動障害や医療的ケアなど手厚い支援が欠かせない人をグループホームで支えていくという観点からは、既存建物での対応は困難なことから施設整備の補助を厚くする必要がある。加えて、職員配置のあり方も、単に世話人の配置で対応するのではなく、専門性のある職員配置を義務付けた上で報酬を厚くするなどし、実践的な研修が整えられるよう人材育成の充実に向かう必要があると考える。